科目名	感染制御学講義	分野・必選別・単位数	専門科目 (臨床検査技術学)	選択	2単位

科目責任者	◎教授　後藤一雄　　教授(兼)　槇村浩一						
課程	博士前期	配当年次	2年	配当学期	前期	授業方法	講義

授業の概要	各種の感染症の病因・病態に関わる教育、研究を行い、感染症における病原体の迅速な検出方法、とくに院内感染制御や食品衛生における感染制御における問題点と微生物の早期検出方法の開発、改良の方向性、加えて現行の感染症法のもとでの病原体検査について留意すべき事項が適切に議論できることを目指す教育を行う。
授業の到達目標	①各種の感染症とその病態を概説できる。 ②感染症について、予防・診断・治療法をを挙げることができる。 ③感染管理上必要となる法的要件を説明することができる。

授業計画

回数	担当者	行動目標
1	槇村　浩一　　教授(兼)	臨床現場で問題となる感染症を整理する。 治療困難な感染症の原因微生物の早期かつ迅速な診断法を調査し、診断・治療面の改良が期待できる感染症を述べることができる。①
2	槇村　浩一　　教授(兼)	臨床現場で問題となる感染症を整理する。 治療困難な感染症の原因微生物の早期かつ迅速な診断法を調査し、診断・治療面の改良が期待できる感染症を述べることができる。②
3	槇村　浩一　　教授(兼)	臨床現場で問題となる感染症を整理する。 治療困難な感染症の原因微生物の早期かつ迅速な診断法を調査し、診断・治療面の改良が期待できる感染症を述べることができる。③
4	槇村　浩一　　教授(兼)	臨床現場で問題となる感染症を整理する。 治療困難な感染症の原因微生物の早期かつ迅速な診断法を調査し、診断・治療面の改良が期待できる感染症を述べることができる。④
5	槇村　浩一　　教授(兼)	臨床現場で問題となる感染症を整理する。 治療困難な感染症の原因微生物の早期かつ迅速な診断法を調査し、診断・治療面の改良が期待できる感染症を述べることができる。⑤
6	槇村　浩一　　教授(兼)	臨床現場で問題となる感染症を整理する。 治療困難な感染症の原因微生物の早期かつ迅速な診断法を調査し、診断・治療面の改良が期待できる感染症を述べることができる。⑥
7	槇村　浩一　　教授(兼)	臨床現場で問題となる感染症を整理する。 治療困難な感染症の原因微生物の早期かつ迅速な診断法を調査し、診断・治療面の改良が期待できる感染症を述べることができる。⑦
8	後藤　一雄　　教　授	病原体別に感染症を網羅的に分類できる。 さらに、発生頻度の高い、あるいは治療困難な感染症症例の病因・病態を検討できる。 感染症例における病原体の迅速な検出方法、とくに院内感染や食品衛生における感染制御における問題点と微生物の早期検出方法の開発、改良の方向性を検討できる。①
9	後藤　一雄　　教　授	病原体別に感染症を網羅的に分類できる。 さらに、発生頻度の高い、あるいは治療困難な感染症症例の病因・病態を検討できる。 感染症例における病原体の迅速な検出方法、とくに院内感染や食品衛生における感染制御における問題点と微生物の早期検出方法の開発、改良の方向性を検討できる。②
10	後藤　一雄　　教　授	病原体別に感染症を網羅的に分類できる。 さらに、発生頻度の高い、あるいは治療困難な感染症症例の病因・病態を検討できる。 感染症例における病原体の迅速な検出方法、とくに院内感染や食品衛生における感染制御における問題点と微生物の早期検出方法の開発、改良の方向性を検討できる。③
11	後藤　一雄　　教　授	病原体別に感染症を網羅的に分類できる。 さらに、発生頻度の高い、あるいは治療困難な感染症症例の病因・病態を検討できる。 感染症例における病原体の迅速な検出方法、とくに院内感染や食品衛生における感染制御における問題点と微生物の早期検出方法の開発、改良の方向性を検討できる。④
12	後藤　一雄　　教　授	病原体別に感染症を網羅的に分類できる。 さらに、発生頻度の高い、あるいは治療困難な感染症症例の病因・病態を検討できる。 感染症例における病原体の迅速な検出方法、とくに院内感染や食品衛生における感染制御における問題点と微生物の早期検出方法の開発、改良の方向性を検討できる。⑤
13	後藤　一雄　　教　授	病原体別に感染症を網羅的に分類できる。 さらに、発生頻度の高い、あるいは治療困難な感染症症例の病因・病態を検討できる。 感染症例における病原体の迅速な検出方法、とくに院内感染や食品衛生における感染制御における問題点と微生物の早期検出方法の開発、改良の方向性を検討できる。⑥
14	後藤　一雄　　教　授	病原体別に感染症を網羅的に分類できる。 さらに、発生頻度の高い、あるいは治療困難な感染症症例の病因・病態を検討できる。 感染症例における病原体の迅速な検出方法、とくに院内感染や食品衛生における感染制御における問題点と微生物の早期検出方法の開発、改良の方向性を検討できる。⑦
15	後藤　一雄　　教　授	病原体別に感染症を網羅的に分類できる。 さらに、発生頻度の高い、あるいは治療困難な感染症症例の病因・病態を検討できる。 感染症例における病原体の迅速な検出方法、とくに院内感染や食品衛生における感染制御における問題点と微生物の早期検出方法の開発、改良の方向性を検討できる。⑧

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		
	【事前学修】	次回授業部分の資料を事前に読んでおくこと。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、関連する文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。

教科書	随時指示する。
参考書	随時指示する。
成績評価の方法および基準	レポート50%、口頭試問50%
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。